

## 日本女性会議

小山市では、男女共同参画の実現と女性の活躍推進に向けた新たなチャレンジを目指す女性を支援しています。男女共同参画では国内最大となる会議「日本女性会議」の参加者を公募したところ、今回1名の女性が参加しました。



日本女性会議 2018in 金沢が10月12日（金）～14日（日）に開催されました。日本女性会議とは、1975年に国連総会において国連婦人の10年を契機に、1984年第一回大会が名古屋市で開催され、それ以降、毎年全国各地で平等社会実現のために開かれています。今年は35回目を迎え、「たたえようこれまでの道 彩ろう未知なる明日」をテーマに、全国から約2,000名の方々に参加しました。

1日目は、内閣府男女共同参画局長の池永氏による基調報告がなされ、我が国最大の潜在力である「女性の力」の発揮は、企業活動、行政、地域社会等の現場に多様な視点や創意工夫をもたらし、全ての人にとって暮らしやすい社会づくりにつながると述べられました。その後、分科会に別れ、パネルディスカッション等が開かれました。私が参加したのは「議会の景色を変えてみよう」と題した政治への参画について話し合う会です。女性議員は国会のみならず県市町のどの議会においても少数派です。その中、前尼崎市長の白井氏が全国最年少女性として市長に就任、8年間市政に取り組み、稲村市長にバトンタッチするという2代続けての女性市長は全国初のことです。女性の地位向上には、みんなを応援する男性を増やすことが大切と説かれ、そしてすぐすべきこととして、自治会に女性が入ること、議会を傍聴することを提案し、何事にも飛び込む勇気を持つと強調されました。その他、女性議員比率が4割を超える小金井市議会などを例に、有意義な話が聞けました。

2日目は金沢において、男性主導の能楽界へ女性の能楽師として入った松田氏の記念講演がありました。能楽師・妻・母として奮闘しながらも自分らしく生きる姿に力づけられました。その後、各分科会の報告がなされ、社会との関わりを持つこと、無関心はやめよう、声をあげる勇氣など積極的な意見が出されました。午後のシンポジウムでは医師で作家のおおたわ史絵氏が医学部の女子入学制限や女医に対する偏見などの医学界事情を話され納得できました。印象的だったのは、日本人の夫を持ち日本で活躍しているインド人のマクスーダ氏です。インドも日本も女性は今を知ること、情報を得る事が必要と話されました。

この会議を通して、多くの人を知り合い、話し合い、楽しく学ぶことができました。今年は10月に佐野市で開かれます。ぜひ多くの方が参加され、良き社会を築くための手がかりを見つけて欲しいと願っています。

